

# 創立50周年に向けた記念式典の準備が始動

一般社団法人日本内燃力発電設備協会では内発協創立50周年を間近に控え、令和7年6月13日（金）に定時総会に先立ち東京プリンスホテルで「第1回記念式典実行委員会」を開催しました。記念式典実行委員会委員と事務局の計12名が出席しました。令和8年の第51回 定時総会と内発協創立50周年の記念式典に係わる諸準備について協議を行いました。同実行委員会では内発協創立50周年の記念祝賀会として、令和8年に開催する第51回 定時総会懇親会を実施する基本方針を確認しました。今回、協議した検討事項は以下のとおり。（8面に内発協創立50周年の記念行事に係わる委員会の委員名簿）



## 参加記念品の内容を検討

記念式典の参加者全員に配布する記念品について。「内発協創立50周年史（電子媒体）」「協会案内パンフレット」に加え、参加者皆様に喜んで頂けるものを次回、令和7年10月23日（木）に大阪市で開催する「第2回 記念式典実行委員会」までに選定することを決めました。

## 特別功労者表彰候補を検討

記念式典の中核をなす「特別功労者表彰」について。表彰候補者、カテゴリー別の選定の在り方について協議しました。最終的には表彰候補者を10名程度に絞り込む方針です。

## 内発協が6月13日に第50回定時総会を開催

一般社団法人日本内燃力発電設備協会（平野正樹会長）は、6月13日（金）15時から東京・港区の東京プリンスホテル2階のプロビデンスホールで「令和7年度 第50回定時総会」を開催しました。開催挨拶に立った平野会長は「会員企業皆様には社内で講習参加を積極的に呼びかけて頂き、感謝します」と謝意を述べました。その上で「今後も専門技術者養成事業を継続・発展させるべくWeb講習の拡充等により、更なるコスト削減、受講促進に向けた取り組みを進めて参ります」と語りました。（4面に平野会長の総会挨拶）

続いて、内発協副会長で株式会社東京電機代表取締役社長の塩谷智彦氏（しおや・ともひこ）が議長を務め、3件の議案について審議しました。

- (1) 自家発電設備の製品認証事業、自家用発電設備専門技術者の養成事業等を盛り込んだ「令和6年度 事業報告」
- (2) 貸借対照表等「令和6年度 決算報告」
- (3) 役員の任期満了に伴う「役員選任」

その内（3）役員選任について。事務局が当日配布した「役員候補者名簿（案）」を基に審議した結果、理事14名、監事2名の計16名が原案どおり承認されました。第50回定時総会では全3議案を全て原案どおり承認し、閉会しました。

総会後、第184回理事会を開催し、理事の互選により新役員を選任し承認しました。

### 令和7年度 新役員【敬称略・50音順】

■理事▼会長：吉村宇一郎（よしむら・ういちろう



う）、（一社）日本内燃力発電設備協会▼副会長1位：浦宏行（うら・ひろゆき）、ヤンマエネルギーシステム（株）▼副会長2位：小野史宴（おの・ふみやす）、（株）小松製作所▼専務理事：黒川昭彦（くろかわ・あきひこ）、（一社）日本内燃力発電設備協会▼小泉悟（こいづみ・さとし）、三菱ふそうトラック・バス（株）▼阪本高宏（さかもと・たかひろ）、川崎重工業（株）▼塩谷智彦（しおや・ともひこ）、（株）東京電機▼田中高浩（たなか・たかひろ）、（株）IHI原動機▼田村成理（たむら・なりみち）、富士電機（株）▼長尾一郎（ながお・いちろう）、（一社）日本内燃力発電設備協会▼中村哲也（なかむら・てつや）、（一社）日本内燃力発電設備協会▼波多野裕一（はたの・ゆういち）、（株）ハタノシステム▼藤浪陽一（ふじなみ・よういち）、（株）AIRMAN▼宮部崇（みやべ・たかし）、（株）東芝

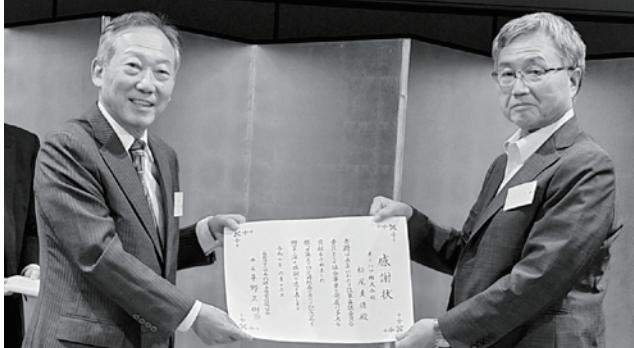
■監事▼石原裕（いしはら・ゆたか）、石原公認会計士事務所▼千崎吉平（せんざき・よしひい）、西芝電機（株）

16時30分、総会と同じ会場で「功労者表彰」を行いました。協会事業の運営に多大な功績をあげた9名の功労者に対し、平野会長が感謝状と記念品を贈呈しました。

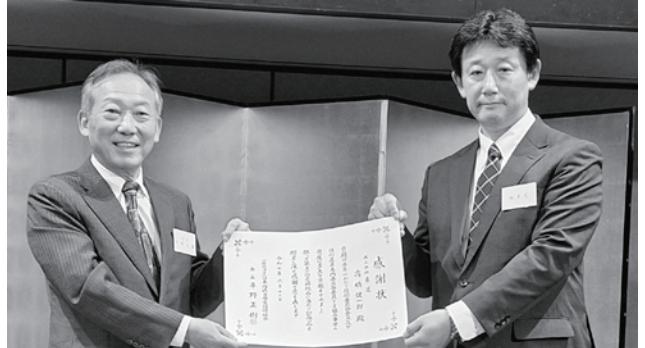
- (1) 松尾圭造氏（まつお・けいぞう）、オーハツ（株）=政策審議委員会の運営に係る功労者
- (2) 島田馨氏（しまだ・かおる）、ダイハツインフィニアース（株）=政策審議委員会の運営に係る功労者
- (3) 鶴来博明氏（つるき・ひろあき）、三菱電機（株）=出力算定委員会、テキスト作成部会の運

営に係る功労者

- (4) 浦野昭英氏（うらの・あきひで）、三菱重工エンジン&ターボチャージャ（株）=新技術調査研究専門委員会、専門技術者審査委員会、試験問題検討部会、技術基準専門委員会の運営に係る功労者
- (5) 高橋健一郎氏（たかはし・けんいちろう）、（株）東芝=技術委員会、営繕作業部会、技術基準専門委員会の運営に係る功労者
- (6) 川上雅由氏（かわかみ・まさよし）、日本内燃



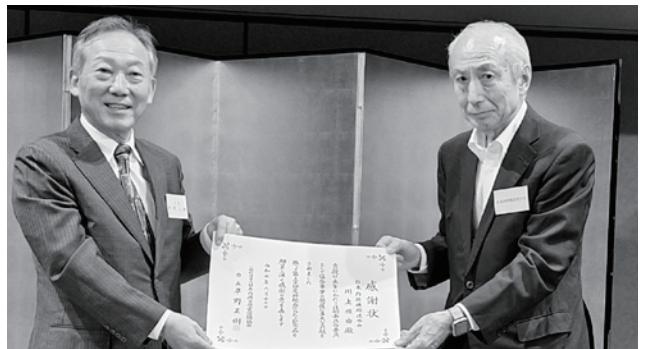
(1) 松尾 圭造 氏



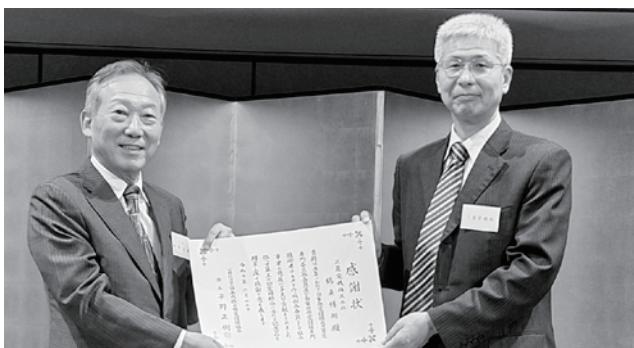
(5) 高橋 健一郎 氏



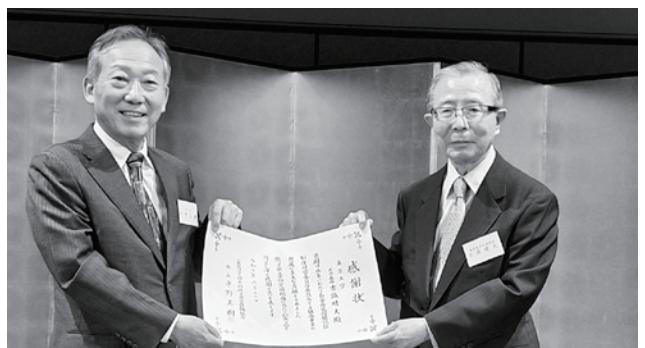
(2) 島田 馨 氏



(6) 川上 雅由 氏



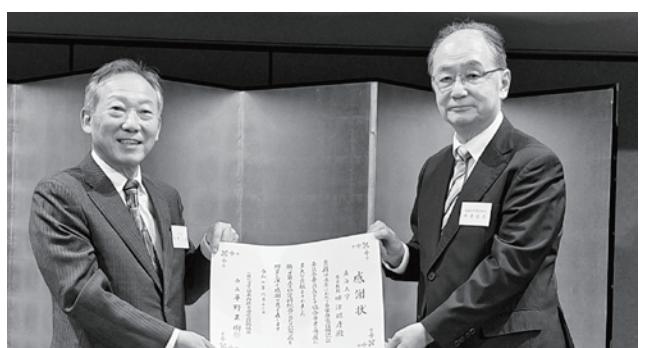
(3) 鶴来 博明 氏



(7) 吉識 晴夫 氏



(4) 浦野 昭英 氏



(8) 畔津 昭彦 氏

機関連合会=技術委員会の運営に係る功労者

- (7) 吉識晴夫氏（よしき・はるお）、東京大学名誉教授=自家発電設備認証制度運営委員会に係る功労者
- (8) 畑津昭彦氏（あぜつ・あきひこ）、東海大学客員教授=自家発電設備認証制度運営委員会に係る功労者
- (9) 浅見啓介氏（あさみ・けいすけ）、（一社）電池工業会=技術委員会、専門技術者審査委員会、試験検討部会の運営に係る功労者 ※所用のため欠席



17時30分から2階のプロビデンスホールで「第50回定時総会懇親会」を開催しました。

吉村宇一郎（よしむら・ういちろう）新会長が懇親会で挨拶を述べました。

#### （5面に吉村新会長の懇親会挨拶）

続いて、来賓挨拶として経済産業省、総務省消防庁、国土交通省の3氏が登壇し、それぞれの立場から祝辞を述べました。 （6～8面に来賓の祝辞）

乾杯の挨拶として内発協新副会長でヤンマーエネルギーシステム株式会社の浦宏行氏（うら・ひろゆき）が登壇し、浦氏の発声に合わせて出席者全員で乾杯を行いました。会場には歓談の輪が広がりました。

19時15分頃、中締め挨拶として内発協新副会長で株式会社小松製作所の小野史宴氏（おの・ふみやす）が登壇し、小野氏の音頭に合わせて会場の全員で三本締め手拍子を打って、懇親会に一区切りをつけました。  
（5～6面に両新副会長の挨拶）

## 挨拶の一覧

一般社団法人 日本国内燃力発電設備協会

### 会長 平野 正樹

会長の平野でございます。令和7年度 第50回定時総会の開催にあたり内発協を代表してご挨拶申し上げます。本日は内発協総会にご出席賜り、誠に有り難うございます。日頃より協会事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この場をお借りして協会事業の近況についてご報告します。

令和6年度は「製品認証事業」「専門技術者養成事業」を中心事業展開して参りました。専門技術者養成事業では受講申込者数が引き続き減少傾向にあり、決算への影響が懸念されておりました。

しかしながら、会員企業には社内で講習受講を積



写真は懇親会場での平野正樹前会長

極的に呼び掛けて頂き、内発協もコスト削減に努めた結果「約300万円の黒字決算」を達成できました。会員企業には厚く御礼申し上げます。

非常用自家発電設備の信頼性を確保する為には設備の品質に加え、実務に携わる技術者の能力が極めて重要であると考えます。専門技術者養成事業を継続発展させる為、Web講習の拡充等により、更なるコスト削減と、受講促進に向け積極的な取り組みの検討を進めて参ります。

本日は任期満了に伴う役員改選期を迎きました。総会では新理事の選任案をお諮り頂きます。私自身は本総会後、理事・会長を退任します。令和2年から5年間、会長の職責を務めて参りました。格別なご支援とご協力賜り、心より感謝申し上げます。

来年は内発協創立50周年の節目を迎えます。本日から始まる新体制下、無事に創立50周年を迎、更なる飛躍の一年となるよう期待します。5年間の長きのご支援に深く感謝申し上げ、私のご挨拶とさせて頂きます。誠に有り難うございました。



写真は総会後の懇親会の会場風景

# 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会 新会長 吉村 宇一郎

内発協新会長の吉村宇一郎（よしむら・ういちろう）でございます。本日「第50回定時総会」「第184回 理事会」で理事・会長という大役を仰せつかり、光栄であると同時に身の引き締まる思いでございます。平野前会長より在任5年間を振り返り、ご挨拶を頂きました。会員企業のご要望に的確に応えつつ、協会活動を着実に進められてきた平野前会長の姿勢に深く敬意を表します。前任者の志を引き継ぎ、会長職の責務を全うして参る所存です。



僭越ながら自己紹介をさせて頂きます。私は昭和57年（1982年）、当時の通商産業省に入省し、主にエネルギー政策に係わる業務に携わって参りました。石油、石炭、発電、保安といったエネルギー分野や基準認証、技術協力、国際協力にも従事しました。

中でも、製品認証や規格基準の整備に努めてきた経験から、内発協の根幹である製品認証、技術者養成の事業分野に土地勘があると思っております。実際に製造メーカー相手の製品認証事業の取り組みは容易なことではなく、実態に即して認証事業を展開していく必要があると強く感じております。

平成26年（2014年）から11年間は、石油連盟の常



務理事を務めておりました。特に防災対策に大きな責任を持ち、災害発生時に「石油は最後の砦」と位置付けられる中、ガソリンスタンドを通じて住民や事業者に「燃料を安定的に届ける体制整備に尽力」して参りました。

政府との調整時に実際に最も強く求められたことは「非常用発電機への安定的な燃料供給」の実施でした。非常用発電機の燃料が途絶えることは経済活動や日常生活に甚大な影響を及ぼします。こうした認識を持って、燃料供給に係わる支援体制の強化に努めて参りました。

非常用発電機の製品認証事業や専門技術者の養成事業に係わる内発協で重要な役割を担わせて頂けることを大変光栄に思っております。今後は会員皆様方のご指導賜り、誠心誠意努めて参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。

# 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会 新副会長 浦 宏行

内発協副会長でヤンマーエネルギーシステムの浦宏行（うら・ひろゆき）と申します。本日はお忙しい中、内発協の第50回定時総会・懇親会にご参加頂き、誠に有り難うございます。先程、第50回定時総会が無事に終了した事をご報告申しあげます。総会後に開催された第184回理事会において、僭越ながら副会長を拝命致しました。今後2年間、誠心誠意努めて参ります。宜しくお願ひ申し上げます。

晴れの舞台で乾杯挨拶をさせて頂く事を大変光栄に思います。また、理事会社・会員会社と、ご来賓の関係省庁・団体が一堂に会して、皆様方が交流を深める機会を得られた事を大変嬉しく思います。

さて、私は自家発業界に携わり、40年余りになります。業界を取り巻く急激な事業環境の変化を痛切に実感します。特に2点の変化を指摘します。

1つは、地球温暖化防止に向けた脱炭素シフトの急速な進展。私達は化石燃料依存からの脱却の重大な課題を突きつけられ、その解決を託されています。

2つは、A I（人工知能）の急速な発展に伴うデータセンターの建設ラッシュ。データセンターは1つ



のサイトに3,000~4,000kWの発電設備が20台~30台と導入される大規模施設です。データセンター向け非常用発電設備はエンジン、発電設備共に、現在ほぼ海外製品が占めています。防災負荷が無いとはいえ「消防認定品の要求」も無しで、安全や品質をどう担保していくのか。不透明な先行きに対し、私は一抹の不安を感じています。

こうした現況の下、内発協はエネルギー・電力分野で、社会インフラの整備と安定した運用に寄与する非常に重要な役割を担う団体であると再認識致します。内発協の事業活動と存在意義を今以上に周知

徹底を図る為、理事会社・会員会社の皆様方が一致団結して、更なる自家発の社会的活用の拡大と共に、自家発業界の発展を目指して参りたいと思います。

## 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会 新副会長 小野 史宴

内発協の新副会長で株式会社小松製作所の小野史宴（おの・ふみやす）と申します。第184回理事会において、日本内燃力発電設備協会の副会長を拝命いたしました。大変光栄に存じます。

弊社小松製作所は建設機械の製造を主業としておりますが、中型・大型ディーゼルエンジンを発電設備メーカー様に納入しており、微力ながら発電設備業界にも貢献できているものと思います。

本日の第50回定時総会、総会懇親会を通じて、皆様と直接お話ができましたことを大変嬉しく思っております。今後は新会長の吉村様を支えて、新副会長でヤンマーエネルギースистем株式会社の浦様と共に、内発協の事業活動をより一層盛り上げてまいりたいと存じます。以上、私の中締め挨拶とさせて頂きます。

最後に、「内発協 第50回定時総会」の懇親会を締めくくる為の締めの手締めを行います。三本締め

本日ご列席の皆様方のご健勝とご活躍、更なる事業のご発展をお祈りし、私の乾杯の挨拶とさせて頂きます。皆様、ご唱和下さい…乾杯。



で締めさせて頂きます。私の掛け声に続いて、全員で三回拍手をします。皆様にはご唱和と拍手を宜しくお願ひいたします。

『それでは皆様、お手を拝借、イヨーオッ』

※最後に、小野氏は感謝の言葉を述べながら、拍手で締めました。

とする等の受講生の利便性向上を通じた講習制度の更なる普及により、設備の円滑な利用や安全の確保に向けた取組を推進され、また、会員企業の抱える共通課題に対しましても、協会がリーダーシップを持って対応されるなど、様々な面で力を尽くされたと承知しております。在任中の御尽力に対しまして、改めて敬意を表させていただきます。

そして、貴協会におかれましては、新しく吉村会長を迎えるましたところです。吉村新会長は、エネルギー政策や関係業界の状況に精通されていると承知しております。新たな体制の下で、貴協会を取り巻く保安・安全に係る課題への取組が深化することを期待いたします次第です。

さて、自然災害への対策の重要性が年々増しています。自然災害が我々の生活に大きな影響を及ぼす中、ライフラインの迅速な復旧は急を要する課題となり、非常用・防災用電源として活用される自家用発電設備が文字どおり重要な役割を担います。貴協会及び会員の皆様により、内燃力を搭載した自家用発電設備の安全性及び信頼性の向上に常日頃から御尽力いただいていることを高く評価させていただいているところです。

また、昨今、火力発電設備に関しましては、カーボンニュートラルに向けて、水素やアンモニアの活用の促進が重要となってきているところでもあります。内燃力発電設備につきましても、例えば、工事現場等の電源として使用される可搬形のものに水素燃料を使用するなどといった新しい取組が始まっています。

さらに、内燃力発電設備の効率向上や排出ガス削減技術も進展がみられるところです。この点、バイオ燃料や先程申し上げた水素燃料など、内燃力発電



## 経済産業省 大臣官房 産業保安担当審議官 との き ふみあき 殿木 文明 氏

本日は、一般社団法人日本内燃力発電設備協会の記念すべき第50回目の定時総会の懇親会にお招きいただき、誠にありがとうございます。お集まりの皆様におかれましては、日頃より産業保安・安全行政に対する御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第50回という節目を迎えたことを、まず、衷心よりお喜び申し上げたいと存じます。貴協会及び会員の皆様の結束の下、自家用発電設備の安全性向上に向けまして、不断の御努力を重ねてこられた成果の賜物であると考えます次第です。

本日、御勇退されます平野前会長におかれましては、御在任中に、自家用発電設備に関する専門技術者の講習制度につきまして、Webでの参加を可能

設備の環境負荷を低減する研究の取組が進められておりまます。産業保安・安全行政におきましても、このような変化を受け止め、日本内燃力発電設備協会の御知見も踏まえつつ、時代の要請に対応してまいりたいと考えております。

このように、自家用発電設備は、社会のエネルギー供給の基盤を担う重要な役割を果たしております。昨今の状況も含め、新しい動きにも機敏に対応できるよう、自家用発電設備に係る専門技術者の養成等を通じまして、高度で専門的な知識・技能を有する人材を確保いただき、今後とも、保安・安全につきまして、その重要な役割を果たしていただくことを大いに期待いたします。

さて、ここで本年の政府全体の取組の一つに目を向けますと、御高承のとおり、4月13日から半年間、大阪・関西万博が開催されておりますところです。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、世界各国から多くの人々が集まり、文化や技術の交流が行われる貴重な機会です。日本の持つ魅力を発信し、未来へのビジョンを共有する場として、大阪・関西万博は大きな意義を持っております。

この万博が持続可能な社会の実現や新たなイノベーションの創出の大きな契機となるよう、経済産業省を挙げて全力で取り組んでおりますところ、その一部局である大臣官房産業保安・安全グループといったとしても、会場の電気・ガスの安全確保や安定供給に万全を期すよう引き続き取り組んでまいりたいと考えております。皆様におかれましても、様々な面での大阪・関西万博への御参画・御参加を、この場をお借りいたしまして改めてお願ひ申し上げます。

結びに、日本内燃力発電設備協会のより一層の御発展、本日お集まりの皆様の益々の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

## 総務省 消防庁 予防課

### 設備専門官 理事官

あけだ だいご

明田 大吾 氏



総務省消防庁予防課の明田でございます。一般社団法人日本内燃力発電設備協会の懇親会にお招き頂き、誠に有り難うございます。貴協会並びに会員企業の皆様におかれましては、平素より災害や火災に

備えた非常用発電設備の設置や維持管理にご尽力頂き、また、消防行政の推進に多大なご協力を頂いておりますことを心より御礼申し上げます。

さて、令和7年の春にかけて、岩手県大船渡市、愛媛県今治市、岡山県岡山市などで大規模な林野火災が発生し、多くの被害が生じました。消防庁では、林野火災の発生を受け、林野庁と共に検討会を開催し、消防活動における課題や改善点を洗い出し、今後取り組むべき予防対策、消防体制等の在り方に向けた検討を進めているところでございます。

また、我が国を取り巻く環境として、人口減少やカーボンニュートラルへの対応、AIやDX技術の進歩により私たちの生活や働き方に大きな変化がもたらされています。

消防行政においても、これらの変化に対応するため、制度や仕組みを見直していく必要があると感じております。一方で、変えていくだけではなく、変えずに守り続けていくことも必要だと思います。

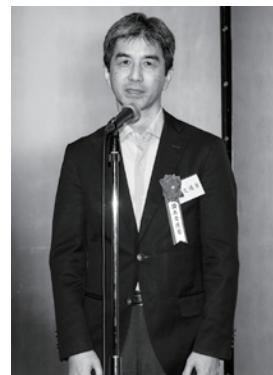
『変革と継続』の両方の視点から消防行政の取り組みを進めていくことが重要と考えております。こうした視点を持つつ、今後の災害や火災に的確に対応するため、貴協会の皆様方におかれましては、引き続きご協力、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

結びになりますが、貴協会のますますのご発展、ご多幸を祈念致しまして挨拶とさせて頂きます。

国土交通省 住宅局

参事官 建築企画

まえた りょう  
前田 亮 氏



国土交通省住宅局参事官の前田でございます。本日は一般社団法人日本内燃力発電設備協会の総会が無事に執り行われ、また、このように盛大な懇親会が開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。まず、平野会長におかれましては、5年間にわたり協会運営にご尽力頂きましたことを深く感謝申し上げます。

吉村新会長におかれましては、引き続き協会の発展にご尽力賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。協会会員の皆様におかれましては、日頃よりレジデンスの確保の観点から、非常用発電設備の品質向上や専門技術者制度の運用を通じて、安心・安全

な社会づくりにご貢献頂いておりますことを心より感謝申し上げます。

さて、昨年1月1日に発生致しました能登半島地震につきましては、国土交通省としても建築物の被害調査を継続して参りました。令和6年11月には調査結果の中間取りまとめを公表させて頂きました。調査結果によりますと、建築物の構造に関しては、新耐震基準で建築された建築物は概ね倒壊・崩壊の被害はなく、現行の基準は妥当と考えられる一方、旧耐震基準の建築物では多くの被害が確認されました。また機能継続の問題が明らかとなりました。

能登半島地震では、免震構造と耐震構造の棟が在る病院で、免震構造の棟では内部も含め被害はほとんどなく、隣接する耐震構造の棟では建物自体は倒壊していませんが、内部の家具が転倒し、中々利用できないという事例がありました。この病院では患者を免震構造の棟に移すことにより、機能継続が図ることができました。

機能継続が図られたのは、構造が免震構造であったことに加え、インフラが止まっても非常用発電設

備による電力の供給により、機能継続が可能だったことによるものと考えられます。非常用発電設備の重要性を改めて示すものであると認識しております。建築基準法は本年で施行75年を迎えます。時代の変化と共に社会や経済情勢、そして災害の様相も変化しており、これまでの「最低限の基準」から、より高い安全性を目指した基準への見直しが必要と考えております。

現在、社会資本整備審議会において、建築の在り方について議論を開始しております。その一環として、幅広くご意見を伺うために「意見箱」を設置しています。協会の皆様にも建築物の重要な要素を支える立場から、ぜひ様々なご意見をお寄せ頂ければと存じます。また建築物の省エネ化の観点からも、引き続きカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みにご協力をお願い申し上げます。

結びに、本日ご出席の皆様のますますのご活躍とご健勝、そして協会の今後一層のご発展を心より祈念申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。有り難うございました。

## 内発協 創立50周年記念行事

総責任者 吉村宇一郎 会長 (一社) 日本国内燃力発電設備協会

### 記念式典実行委員会（記念式）

委員長	塩谷 智彦	副会長	(株)東京電機	代表取締役
委員	八箇真佐之	理事	日本機工(株)	取締役 会長
委員	彦部 浩司	理事	(株)明電舎	専任部長
委員	金子 進	政審委	いすゞ自動車(株)	グループリーダー
委員	小泉 悟	政審委	三菱ふそうトラック・バス(株)	担当部長
委員	小野 史宴	政審委	(株)小松製作所	部長
委員	松尾 圭造	政審委	オーハツ(株)	取締役

### 記念史企画委員会（記念史）

委員長	浦 宏行	政審委	ヤンマーエネルギーシステム(株)	取締役
委員	宮部 崇	理事	(株)東芝	技師長
委員	大竹 寛之	政審委	三菱重工エンジンシステム(株)	副事業部長
委員	波多野裕一	政審委	(株)ハタノシステム	代表取締役
委員	山田 正雄	政審委	デンヨー(株)	取締役 常務執行役員
委員	堀田 統之	政審委	(株)日立インダストリアルプロダクツ	主任技師
委員	北島 久夫	政審委	(株)第一テクノ	代表取締役 社長
委員	荒木 貴志	政審委	川崎重工業(株)	課長

### 事務局【(一社) 日本国内燃力発電設備協会】

責任者	黒川 昭彦	事務局長
幹事	勝野 泰司	部長 総務部